

2018年7月31日(火)、タイ王国バンコク近郊のインパクト・チャレンジャー・ホールにおいて、本学とタイ農業協同組合省(MOAC)、地理情報・宇宙技術開発機関(GISTDA)との間で連携協定の調印式が執り行われました。

本学からは、名和豊春総長、増田隆夫工学研究院長、横田 篤農学研究院長、野口 伸農学研究院副研究院長、山田敏彦国際食資源学院副院長、川野辺創国際連携機構副機構長他、2名の教職員が参加しました。

同日午前中には、在タイ日本国大使館の協力のもと、本学関係者と日系企業関係者などで連携協定に関する産学ミーティングを行いました。タイ政府は現在 Thailand4.0を進めており、人工衛星等を活用したスマート農業に力を入れています。今回の協定内容ともなっているこれらの研究領域は、本学が進めている「ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点構想」と密接に関係しており、農学研究院や工学研究院をはじめとし、複数の部局が関わり、積極的に推進しているものです。

同日午後に行われた調印式では、辻 泰弘北海道副知事の挨拶に続き、MOAC 大臣顧問のナロン・オンサーード氏より挨拶をいただきました。その後、名和豊春総長、ラートビロージ・コワッタナ MOAC 事務次官、アノンド・スノドボン GISTDA 長官がそれぞれ協定書に署名しました。調印式には、関係者 100 名以上が出席しました。

本協定の締結を契機に、本学とタイ王国との間にこれまで以上に深い繋がりが生まれ、協力関係が活発に推進されることが期待されます。



調印式の様子